

1976.5.10

東京蜘蛛談話会

新入会員のお知らせです。(51年度
新入会)

194 町田市本町^(町田)2441 木曾住宅ト
1-406

相本 幸一氏

相本氏は 高野伸二氏の島仲間です。
17インチマシヤトゲクモをみて7モかすきにな
られたとのことです。

蘆嶋先生がテレビに出演されました。
東京では、2月9日7:30「日本テレビ」の「ほん
ものは誰だ!」で「放映」の出演です。
「7モを守ることを全国に呼びかける7モ博
士」の本物さんです。3人の中央に座っ
て質問に答えておられました。ついに
わからずににせものを本ものとした回答
者が多く、たまた1人だけ正解者でした。
そのあと、ゴキブリの天敵のアシダカゲモ、
魚を狩るハンクモ、ササガモ、ハエトリガモ、
空中飛行などを紹介されました。

No.9にも紹介しましたが、埼玉県の鈴木
木勝浩氏は日本学生科学賞で7モの研究
により、全国大会、文部大臣賞を授賞され
ました。おめでとうございませう。今後は、
7モの生活史の解明に努力したいとの
ことでした。

2月29日、同定会を行いました。参
加者は、以下の方々で、標本もかなりあり、
顕微鏡4台を使って、談話会をしながら
の同定風景でした。

参加者(50音順・敬称略)

小澤 寧子、小野 展嗣、熊田 寛一、栗原
輝代子、権田 重雄、佐久間 良三、嶋田
順一、清水 仁、新海 明、新海 栄一、高野
伸二、野崎 喬生、蓮沼 克己、松原 祐二、松
本 誠治

1人300円の参加費でしたが、15名の参加
で、少し残金がありました。談話会費にくり
入れます。

さて同定会の成果ですが、第1回目での

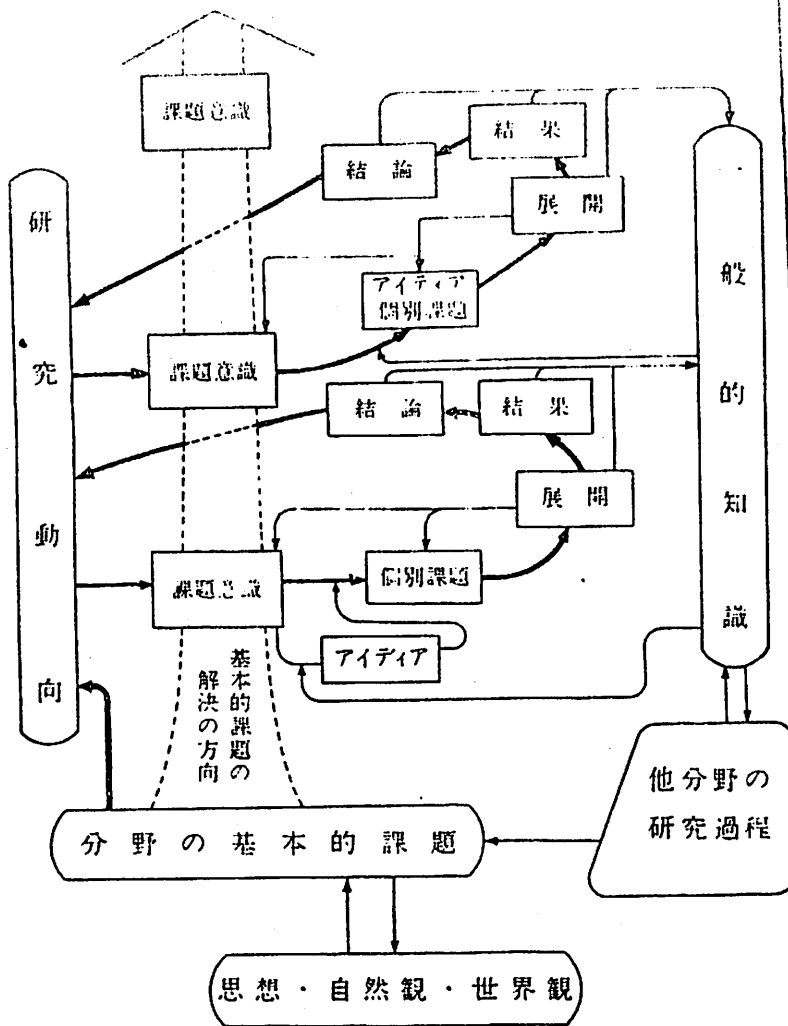
で同定した7モを全部発表しましょう。死す
佐久間良三氏が持ってきた標本です。

1. コムウラシマ7モ (小田原市城山・30-X-'70)
2. アシナガ7モ (同上 18-VIII-'70)
3. 同上 (小田原市酒匂町下流・13-IX-'70)
4. 同上 (小田原市城山・24-VII-'70)
5. ヤサガ7アサガ7モ (小田原市萩窪・20-X-'70)
6. Pardusa sp (小田原市城山・24-10-'71)
7. ヨウハンハエトリ (同上・27-VI-'71)
8. アリクモ (同上 7-VII-'71)
9. 同上 (同上 23-VII-'71)
10. イナハシクモ (同上 19-VIII-'70)
11. Pardosa sp (小田原市萩窪・20-X-'70)
12. レアコ7モ (小田原市城山・25-VIII-'70)
13. Coelotes sp (同上 15-VIII-'70)
14. ネコハエトリ (同上 24-VIII-'70)
15. キザンハエトリ7モ (静岡・富士宮市・29-X-'73)
16. ヤマトカナエ7モ (小田原市城山・27-VI-'71)
17. キアソハエトリ (同上 31-VII-'71)
18. シモン7モ (同上 4-V-'73)
19. Theridion sp. (箱根町仙石原・30-VIII-'75)
20. ヤマトヨウ7モ (同上 31-VIII-'75)
21. キラシロアサガ7モ (同上 30-VIII-'75)
22. ウロコアシナガ7モ (同上 31-VIII-'75)
23. ネコ7モ (小田原市城山・18-IV-'72)
24. Micryphantidae sp. (同上 27-VI-'71)
25. ツリカネヒメ7モ (同上 24-VIII-'71)
26. キラシロカネ7モ (箱根町仙石原・30-VIII-'75)
27. キツクモ7モ (小田原市萩窪・24-X-'71)
28. Theridion sp (小田原市城山 24-X-'71)
29. テーニツツハラ7モ (箱根町湯本・30-XI-'75)
30. アズマヤ7モ (同上 30-XI-'75)
31. 同上 (小田原市城山・10-X-'75)
32. フロタンキン7モ (小田原市城山・17-X-'71)
33. Chiracanthium sp. (同上 17-X-'71)
34. カサフオロ7モ (同上 23-I-'76)
35. Theridion sp. (同上 26-IX-'71)
36. カコミジン7モ (箱根町金時山・24-VIII-'75)
37. Cybaeus sp. (小田原市萩窪・23-X-'71)
38. 7キ7ロサツマシタマシ (箱根町湯本・4-IX-'75)
39. テーニツツハエトリ (同上 4-X-'75)
40. 7キ7ロサツマシタマシ (小田原市城山・18-VIII-'70)
41. イエコウレイ7モ (宮城・田代町・16-VIII-'75)
42. キアカサ7モ (小田原市城山・30-VIII-'75)

次は 栗原輝代子氏の標本です。

1~10まで 北海道・東京大学農学部 99 林班
30-VII-'75

1. ナカヒメ7モ, 2. イリクサ7モ



左の図は、(1975. 研究過程の合法性) 日本科学者, 10(12): 5-9 内の挿図です。文章もちょっと読まないと、p.6 「こゝで結果とみているものは、主として導き出された事実は見出された事象を意味している。このような事象の確定に於て一つの研究過程が終結し、次の研究過程が開始されるのにみえるが、実際は展開の後に得られた結果が広く考察されて結論に到達し、研究過程は一つのサイクルを終る。結果とアイディアとの関係を明らかにするには、結果と意識の相違に於てにさかのぼる必要がある。」; p.7 「結果と結論は一般論の内容をより豊かにするとともに、新たに研究方向の一部となりこれを発展させながら分野の基本的課題にもたらす影響を与える。」; p.8 「哲学

の有効性を強調するあまり、科学研究の各段階の質的相違に目をついて一様にその適用を主張するとき、科学研究に対する主観主義的傾向が生まれてくるであろう。」; p.8 「哲学は分野の基本的課題と研究動向の形成に対して影響を及ぼしうること、一方哲学が他の個々の具体的な研究過程の各段階に直接的に作用させたとき、哲学と科学研究との関係に誤った傾向をひきおこす可能性があること。以上の2点はほぼ正しいと考えてよいであろうと思われる。」

紹介した中では、p.8の2つの文章は、自分にとっては真逆向きです。正しいと考えておくとあつたか、どうでしょうか？ 田中氏の論文は 1.序論 2.研究過程の合法性 3.分野の基本的課題 4.研究体制 5.むすび 6.付録から成り立っています。(松本)

この記事

1. 水野寿彦著「動物生態野外観察の方法」築地書館(1974)
pp.25-28: 庭にいた7種類の飼育
pp.83-88: 7種類の生活と観察
2. 内田亨著「動物百話」ニューサイエンス社(1971)やまし動物教育書
pp.113-114: かげろふと遊糸について
3. S.M.エウァンス著・大滝哲也訳「動物の行動」河合書房新社(1973)新生物学シリーズ⑩
pp.39-40: 7月の求愛行動の鎮静機能について
4. L.&M.シルン著・長野・沢近訳「生命の時間—誕生・生長・老化—」河合書房新社(1972)
付記p.16: 7月の寿命について
5. 青木淳一著「土壌動物学」北隆館(1973)
pp.197-211
6. 串田孫一著「博物誌Ⅰ」社会思想社(1971)現代教養文庫741
pp.48-49: 音に対する実験
7. 串田孫一著「博物誌Ⅱ」社会思想社(1972)現代教養文庫778
pp.98-99: オオヒメグモについて
8. 串田孫一著「博物誌Ⅳ」社会思想社(1973)現代教養文庫
pp.120-124: オオヒメグモについて
(1976.2.29・佐久間良三)

7月の記事 大小にかかわらずお寄せ下さい。佐久間氏はいつもこの5月の記事に気をつけて下さいます。談話会のパンフレットをみれば、たいむのことがわかると思います。郵便料が上ったので、葉書でも結構です。談話会例会の際、採集・観察会のヒマに手添して下さい。結構です。宜しくお願い下さい。

お知らせ

採集 観察会

5月16日(日) 9:30am
(雨のときは5月23日)

小田急線伊勢原駅前集合
10:00am 出発
バスで日向薬師バス停下車
採集・観察の場所は

日向薬師〜広沢寺です。

採集・観察に必要な道具の他
昼食、のみそ、雨傘などを用意して下さい。

実行委員は 高橋登氏です。
問合せは同氏へ。

phone: 044-288-2921

例会 と 総会

6月13日(日) 10:00am.

目黒区立大橋区民会館

総会の議題には

新運営委員の選出と承認
があります(52.53年)で多くの
方の出席をおねがひいたします。
また、会費はといたしても、
議題の提案がござりますので、
ご意見など多数お寄せ下さい

昼食は行参して下さい。会費
は、いつもと同じようにお持ち
下さい。

例会の方の Information を
ご利用下さい。お返事は
なければ「幸 題はほどき」です。

実行委員: 栗原輝代子

phone: 0427-23-4416

田中理恵

phone: 0425-57-0355

W. J. Gertsch (1949) AMERICAN SPIDERS D VAN NOSTRAND Co. Inc. (Princeton) pp. 267 270 Glossaryの訳です。術語の訳は一般的と思われるものを採用しました。

Abdomen: 「腹部」 7モの体の後半分。腹柄も含む。しかし一般的には主として糸いぼを持つ分節してはいない。3. 3. 3. の部分を用いる。

Anal tubercle: 「肛丘」 肛門がある小さな尾節。Postabdomenともいう。

Antennae: 「触角」 昆虫や甲殻類などの頭部に生えている分節した感覚器。しばしば "feelers" と呼ばれる。7モ形類の全7のものに欠けている。

Appendages: 「付属物」 体に縫着している體部分や器官(歩脚・糸いぼ・鋏角のようなもの) (発生学上胚に出来る隆起に由来するものもいっている。歩脚・糸いぼ・鋏角すべてが別の隆起に由来している。それ故、付属肢と書いてよいであろう)

Arachnida: 「7モカク糸綱」 サソリ・クモ・サトウムシなどを含む。空気呼吸をする節足動物の1綱。arachnids と総称される。[蛛形綱 (たケイコウ) と書かれますか。さすがしくいわなくともいいのではないでしょうか]

Arachnologist: 「7モ学者」 7モカク類を研究している人。

Araneae: 「7モ目」 7モ (Spider) の真正目の名。Araneida と同じ。[メカク7モ属がサトウムシに換る。定着してあるの7モから。わざわざ"真正"などという語をつけるのはどうでしょうか。"7モ目"を充分と思いませんか]

Araneology: 「7モ学」 7モだけを扱う動物学の1分野。

Arthropoda: 「節足動物」 節足動物門 (Arthropoda) に入る。ムカデ・ヤスデ・昆虫・甲殻類 (クモ・サソリ) の他ほとんども知られていないものもいるからこのように書かれています。歩脚・糸いぼ・鋏角があるとは歩脚印を指している。

Attachment disc: 「付着盤」 (糸いぼ) 糸を定着させるのに使っている細い糸のあつまり。[付着板という字もあります]

Autophagy: 自食の他の方法で体から脱落した付属肢をたべてしまうこと。(お涙かみつきませぬ。"自食"と聞いて何かわかりません。オートファジーというのでしよう)

Autotomy: 「自切」 付属肢を脱落させることによる反射行動力。7モカク類では知られていない。[原文 unknown in the arachnids とありますか。どうでしょうか]

Autospasy: 外節からひき出された毛に起因する。自前はこわいかもしれないがこれら付属肢の脱落。7モ目以外の7モカク類ではしばしば起る。[Autotomy との区別が明確になると。7モカク類では Autotomy は知られないといってもいいのかもしれない。これも道訳がありません。Autospasy (aspasm) は自食する+ケレムとありますが、やはり。オートスパシーアでしょうか]

Ballooning: 「空中旅行」 7モカクが紡ぐ糸にのって空中を浮遊すること。

Book lungs: 「書肺」 7モカク類の呼吸用のふくら。空に浮いたシート(呼吸器)に似たもので、ガス交換のための最大面積を与えている。体の中にうまった。葉形したエラであるといわれています。 ((p.267 終り))

()内は訳者注です。不適当な訳もあるかと思いますが (Appendages など)。ぜひ正解などお教え下さい。7モ学専攻の99キ台にもなるかと思えるので、ご尽力をお待ちいたします。(この項の責任は私本にあります。)

